

20

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
井原ゆき子	女性	84歳	18歳	中宇利

- ① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。  
中宇利で農業をしていました。
- ② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。  
隣となりの家のラジオで聞きました。陛下へいかのお言葉を悲しく聞きました。
- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子  
びっくりしました。これから私たちはどうなることかと思いました。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

### 「女子青年団員として」

私は女子青年団に入っていました。寅とらどし年生まれは年の数だけ千人針せん にん ばりを縫ぬえましたので、出征しゅつせいする人々の武運長久ぶ うん ちよう きゆうをお祈りして、多くの方々に縫ぬって差し上げました。



▲ 千人針

協力：豊橋市教委

出征しゅつせいされる時は、中宇利

の各部落ごとに見送りをしました。その方の家から親せきの人や、組の人、友達などがいっしょに行列をつくって見送りました。男は、「必勝」というような言葉を書いた腕章わんしょうをつけ、女は白のかっぽう着に大日本国防婦人会と書かれたたすきを掛けました。竹竿たけざおに日章旗と海軍の旗をつけ、武運長久と出征される兵隊さんの名前を書いたのぼりのぼりをかつぎ、村境まで軍歌を歌いながら歩きました。「出征兵士を送る歌～天にかわりて不義をうつ」や「勝ってくるぞと勇ましく」の歌を歌ったことをよく覚えています。今でも、歌えますよ。

外地へ出征された兵士の方には、慰問文いもんぶんを書いて送ったりしたこともあります。

また、昭和20年になると、外地にいた兵隊さんが国を守るために、この村にも入ってこられ、中宇利の公会堂や富賀寺、慈廣寺などに宿泊しゆくほくされました。富賀寺には、上官じょうかんの方が泊とまられました。各地あちこちから召集しやうしゅうされた兵士が多かった怒部隊いかりや、満州の関東軍砲兵隊ほうへいの桜部隊の方達がみえました。私たち女子青年団は、その方々の接待ていはいや泊まる所の掃除そうじをしたり、慰問いもんに踊りおどをしたりして楽しんでいただきました。豊橋の18聯隊まで慰問に行ったこともあります。

農家は、米はほとんど供出きやうしゅつ。サツマイモを切きって干ほして出したり、桑くわの木の皮をさいて上の皮を取り、洋服やうふくにしたりしたそうです。いろいろなものが配給はいきつ\*1 とな

\*1 P-16-参照

りましたが、衣類は切符の点数だけしか買えず、娘ざかりを粗末な着物で過ごしました。「ほしがりません、勝つまでは」を合言葉に、みんなそれぞれに辛抱しました。

富賀寺の前に、亡くなられた兵士のみなさんの墓標があります。中宇利だけで50数人の方が亡くなられたのです。こんな小さな村で50人もですよ。若くてりっぱな方ばかりで、思い出すと本当に悲しいです。

毎年8月24日には、富賀寺の前の墓地で戦没者の慰霊祭が行われていました。

今は平和、昔の苦しかったこと、つらかったことを忘れないようにして、戦争を二度と起こしてはいけません。それだけは、みなさんによく分かってほしいです。



▲ 富賀寺前にある戦没者慰霊碑



▲ 配給品を受け取る様子 (写真協力：豊橋市教委 年代・場所は不明)



慰問袋

協力：奥三河郷土館

各地の婦人会は、出征兵士に慰問袋を作って送った。中には、ちり紙、さとう、石けん、雑誌、タバコ、タオル、するめ、歯みがき粉、ドロップス、百草丸などが入っていた。

(昭和15年当時：  
東三河の100年より)